

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

雨のち晴れっ！

【作者名】

George

【あらすじ】

春から高校生になる岡田啓祐と吉本友香。

幼馴染の二人は啓祐の父親の事情により

ひとつ屋根の下で生活することになる。

二人とその友人との青春学園物語！

初投稿です！

評価・感想待ってます。

よろしくお願いします。

プロローグ

ただ今4月8日午前3時。

明日は高校の入学式である。

にもかかわらず、俺の脳は寝ることを拒否している。

まあ昼間に7時間も寝ればこうなるか…。

しかしすることがない。とりあえず、

「トイレにでもいくか。」

そう思い、ベッドから体を起こして部屋をでた。

廊下に出てトイレの方を向いた次の瞬間、

「はげまっしっ!!」

ドロップキックがとんできた。

見事に顔面に直撃。自分の部屋の中までとばされた。

かました本人は腕を組んで俺の前に立ち一言。

「変態啓祐。」

「Jの身長160センチあるかないかの女の子はそう言い放った。

怒っても面倒なだけなので、

「とりあえず蹴られた理由を教えてください。」

比較的穏やかな感じで質問した。

「自己防衛。」

「言ってる意味がわからん。」

「あたしに夜這いをかけに来たあんたを迎撃したのよ。」

「J、Jいつはいきなり何を言ってる…。」

「友香、落ち着いて聞いてくれ。俺はトイレをしにきただけだ。

夜這いなどという行為は断じて…。」

「言い訳は見苦しいわよ！あたしの部屋に向かったじゃない!!」

「そりゃおんなじ方向にあるから当然だろ！っていうか判断材料そんなだけかよ!!」

「それ以外に何が必要なのよ！どうせひとつ屋根の下で暮らすうちに

私への欲情を抑えきれなく
なつたにきまつてるわ!」

「はっ、何をいつてるんだか。いくら成長した幼馴染とはいえ、お前の
体に俺が欲情する要素がど

こにある。自意識過剰もいいとこ!」

…ブチン!!

な、なんかすごい音が…。

「ぐじやう、きょ・う・も出されたいみたいね。」

「ま、まて誤解だ!さっきのは俺が慣れてるっていう意味であって決
しておまえが幼児体型だというわけでは、ってちょっとまて、なぜ窓
を開ける。ここは2階だぞ。やめろっ、いややめてくださいまじでか
んへ」

「外で反省しなさい。」

冷たい声とともに窓から放り出された。

結局今夜も寝れないのか。

第一話

「ふえっくしゅいー」

朝からくしゃみが止まらない。

結局あの後友香が朝ランに行くまで

外で過ごした。

5時半頃で、寝るには中途半端だったので、

リビングで友香の両親が来るのを待っていた。

今はもう6時なので、

2人共起きている。

「災難だったなあ、啓祐君。」

そう声をかけてきたのは、友香の父さんの政史さんだ。

昔はかなりのスポーツマンだったらしいが、

今は正直見る影もない。

「そう思っただったら、ちゃんとしておいて

くださいよ」

吉本家に居候し始めて約1週間。

その約半分の夜を外で過ごしてきた。

そろそろ手を打たなければ、

これが俺の日常と化してしまつ。

「はっはっはっ！わるいわるい。」

「笑い事じゃないですよ。」

風邪ひいたらどつしすんですか

「その時は風邪薬を飲ませてあげよう。」

「それは真面目に答えてるんですか？」

それとも僕をからかって楽しんでるんですか？」

「安心してくれ。昨日コンビニでたくさん買ってきた。」

「…。」

どつやら敵は1人じゃないらしい。

「まささんは友香に頭が上がらないんですよね。」

この人は友香のお母さんの佳澄さんである。

歳は知らないけど、近所でも美人で有名だ。

「それならお母さんからお願いしますよ」

「うん…。そうしてもいいんだけど…」

「…だけど？」

「放っておいたほうが面白そうだし…」

「それはどういうこと?!」

友香が僕をいじめてるのをみて楽しんでるってこと?!」

この人たちに他人の子を預かっているという

認識はないらしい。

「まあそう怒らないで。もうすぐできるからね」

「僕、朝御飯について何かいいました？」

「さあ急がないとっ。もうすぐ友香が」

「ただいま〜！」

帰ってきたな。

「おかえり〜。」

「あ、おはよ〜母はなな。」

もつすぐできるからね、と友香の母さんは台所に戻って行った。

「お父さんもおはよう。」

「ああ、おはよう。」

「さて。俺には挨拶なしか!？」

「必要ないでしょ？ずっと起きてたんだから。」

「母さん、先に風呂入るね。」

「誰のせいだ誰の!？」

俺の叫びをしり目に友香は風呂に入って行った。

*

シャワーを浴びて、私はそのまま制服に着替えた。

うちの高校は女子はセーラー服となる。

鏡で見ながら、自分でも成長したなと思った。

(それをあのバカ…。)

まあ幼馴染で昔からあいつのことは大体わかってるし、

許せるはずだった。

昔だったらだが。

(もつちよっとまともに女の子扱いしてくれても…)

とは思ってみるが、それは贅沢だと思いなおす。

幼馴染とはいえ、こうして一緒に住めること自体

喜ぶべきことだ。

別にあいつを好きだとかは思わない。

ただ、ちいさい頃からあいつといると楽しくて、

嫌なことも忘れられた。

兄弟のいない私にとって、何の気兼ねもなく

話せる相手だった。

とにかく私にとっては…

「ゆか、待ち合わせに遅れるわよ。」

「はっい。」

…ま、いつか。細かいことは。

今は急いじい！

時刻は7時。俺と友香はどこにでもあるような道を通り、

*

学校の入学式に向かっていた。

夜とは違って、肩ぐらいまでの黒のショートカットが輝いてみえた。

ちいさい頃から見えてきたけど

中学の3年で随分変わった様を感じる。

性格は変わってないけど…。

学校には2、30分で着くのだが、待ち合わせをしていた。

友香は卒業してから何度か会っていたみたいだが、

俺はそいつらと会うのは中1以来だ。

目的地の公園に着いた。と、

「おーい、ゆか〜!!」

え〜と、あいつは確か…

「あっ、あかね〜!おはよ〜!」

そうそう、森山茜だ。

たしかバスケ部じゃなかったっけ。

全然変わってないな…。

「啓祐君も、久しぶり〜！なんか雰囲気変わった〜？」

「お前は全く変わってないな。」

「え〜？そんなことないと思うよ〜。ほら、胸とか〜？」

「あ〜、まあこいつよりはでかくふべらっ〜！」

「初日から保健室に行きたいの？」

「あはっ、そのノリも久しぶりみたなあ〜。

でもゆか、ほどほどにしないと今のあなたなら

ほんとに病院送りになっちゃうよ〜。期待のエースさん〜？」

そう、友香はチームを全中ベスト8に導いた

ソフト部のエース投手だった。

春休みもちよくちよく高校の練習に参加したりしていた。

「大丈夫よ、ちゃんと確認したし。」

「？」

「これには俺も意味がわからなかった。

「春休みにさんざんやって一度もけがしなかったし。」

「あれは確認だったのか!? てゆか、俺が毎回

どんな思いしてるよ」

「じゃあ〜、まあ、いつか〜。」

「はいそこ!! 納得しない!!」

「だって〜、どうせやられるのは啓祐君だし〜」

「お、俺、この先どうなの?」

と、そこへ

「朝から災難だなあー。」

と、後ろから肩を叩かれた。

振り向くと、なんか見覚えのあるようないような…

「お、お前リョウカ!?!」

「あつたりー!?!」

と、にやりとされた。

兵藤涼輔。俺の親友の1人だ。

俺がとある事情で中1で転校せざるをえなくなった後も、

メールで連絡を取り合っはいたが…

「なんか、いろいろ変わったな…。」

「ただ髪染めとピアスをやめたただけだぞ？」

「大した進歩だよなあ、啓祐？」

もっ1人男の声。

「遅えぞ、ショータあ！」

齋藤翔太。野球部のエースで4番。

全国ベスト4の原動力だ(と、リョウはメールで言っていた)。

「そろったわね。」

「なんか、このメンバーで集まるのも久しぶりね。」

「いや、俺がいなかったただけだよな？」

「まあ、細かいことは抜きにしようぜえ？」

「そうそう。それに、そろそろむかったほづがよくな？」

たしかに、頃合いだ。

「じゃあ行いっ！」

友香が先に駆け出した。

俺達も続いて走る。

空は快晴だった。

人物紹介

岡田 啓祐

身長：172 cm

体重：65 kg

血液型：B型

この物語の主人公。

運動神経抜群であり、大抵のスポーツで申し分ない成績を残せる。

そのせいで小学校時代はいろんなクラブから助っ人を頼まれた。

中学1年の春に問題を起こし、地元の中学から転校を余儀なくされる。

比較的明るい性格だが、間違っていると思うことに対しては

いきすぎた事をしてしまう場合もある。

父は元オリンピック体操日本代表。

吉本 友香

身長：158.5cm

体重：ぐおおおおおおあああああああ!!!

血液型：O型

啓祐の幼馴染の黒髪短髪の女の子。いつも周りに元気を振りまくほど明るい性格。

運動神経は啓祐と引けを取らないほどで、小学校時代は啓祐に付いていき、

いろんなクラブをまわった。

中学校からはソフトボール部に入り、最後の全中ではチームをベスト8へ導いた。

なぜかプロレス技に詳しく、啓祐はかなりの頻度でかけられている。

森山 茜

身長：162cm

体重：教えな〜い（笑）

血液型：不明

おっとりとした美少女（リョウ談）。茶髪で髪は長い。

バスケットボール部所属で、ポジションはPG。

マイペースで人当たりもよく、友人は多い。

友香らのよき相談相手でもある。

兵藤 涼輔

身長：175 cm

体重：68 kg

血液型：AB型

愛称は「リョウ」。小学校時代は荒れていたが、中学時代に転校してきた啓祐と出会い、徐々におとなしくなった。

金髪であり目つきも多少怖いが、友人思いの行動もみせる。

人脈は並でなく、啓祐の事を心配していた友香らに情報も届けていた。

齋藤 翔太

身長：183 cm

体重：82 kg

血液型：A型

小学校3年生から野球を始め、同級生の間では有名人。

小6から「4番ピッチャー」で、中学時代はチームを2年連続で

全国大会に導く。地元では「天才少年」と噂されている。

吉本 政史・吉本 佳澄

友香の両親。

父のほうはあるスポーツの選手で、全国区の実力を持っていたらしい。

母は多少天然だが、かなりの美人（啓祐評）。